○【社会実験】中瀬公園汽水性生物調査（歴史等情報受発信）

１　日時・場所

令和８年　９月 24 日（木）　8:00-10:30　中瀬公園　　本調査
令和８年 10 月 27 日（火）15:00-16:30　まちなか交流拠点　　報告会

２　目的

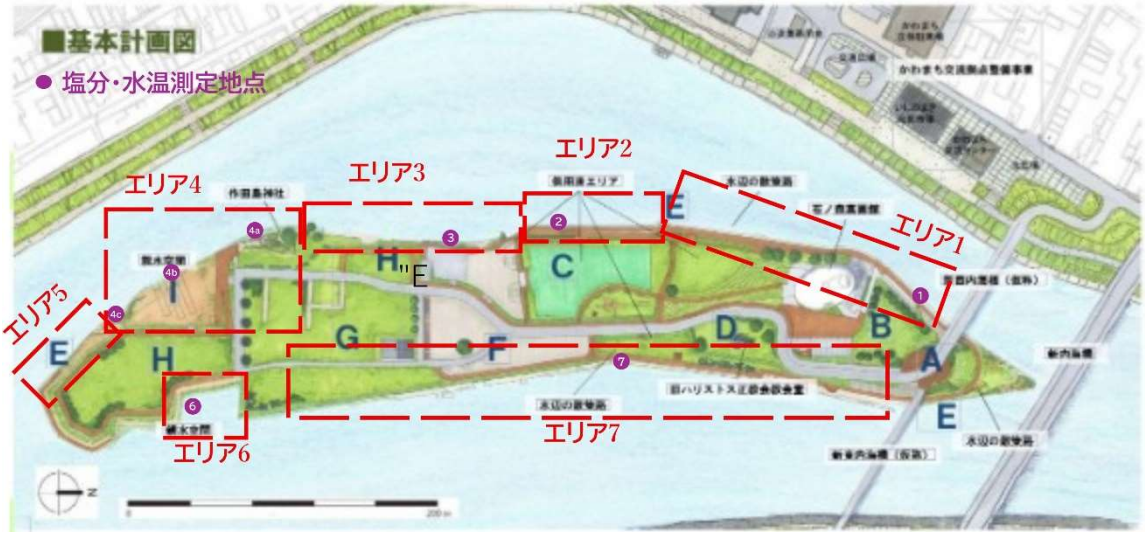
石巻市は、市民や企業、大学等と連携して中瀬公園官民連携事業を進めているが、官民連携で検討してきた中瀬公園の将来像では、生物多様性の保全・確保を図ることとしています。

今回は、その生物多様性の保全・確保を図るための基礎調査として、石巻専修大学が、将来像における親水ゾーンを中心に、水辺の生物調査を実施しました。

調査は、理工学部生物科学科の阿部博和准教授（海洋ベントス学研究室）を中心に、研究室に所属する９名の学生が実施しました。

３　調査エリア

下図の通り７つのエリアに分けて生息する生物を調査しました。



４　参加者（調査）

阿部　博和（准教授）
大見川　遥（博士課程１年），小田　晴翔（博士課程１年）
高橋　陽大（修士課程２年），甲地　由樹（修士課程１年）
及川　愛香（学部４年），大友　塁（学部４年），小野　由護（学部４年），
二階堂　優和（学部４年），服部　陽菜（学部４年）

５　調査エリアの様子



A-B：エリア 1，C-D：エリア 2，E-F：エリア 3，G-I：エリア 4，J：エリア 5，K-L：エリア 6（K は満潮，L は干潮の時刻付近），M-O：エリア 7

６　調査結果概要

調査の結果、アシハラガニやクロベンケイガニなどの生息が確認されたほか、環境省や宮城県のレッドリストで絶滅危惧種・準絶滅危惧種に指定されているヨシダカワザンショウ、ミズゴマツボ、アカテガニ、イトメも確認されるなど、中瀬公園周辺に多様な生物の生息環境が維持されていることが明らかになりました。

分類群	生物種	調査エリア（●：生息確認）						
		1	2	3	4	5	6	7
節足動物門 甲殻類	アシハラガニ				●		●	
	クロベンケイガニ	●	●	●	●		●	●
	アカテガニ				●			
	ケフサイソガニ		●	●	●	●	●	
	スジエビ		●					
	ユビナガスジエビ							●
	シラタエビ				●			
	アムールエビジャコ		●		●			
	キタアメリカフジツボ	●	●	●	●	●	●	
	ムロミスナウミナナフシ		●		●			
	キタフナムシ	●	●	●	●	●	●	●
	イソコツブムシ属の一種		●	●	●	●	●	
	ニッポンヒイロワラジムシ				●		●	
	ヒゲツノメリタヨコエビ		●	●	●		●	
	ニホンドロソコエビ				●			
	サラドロクダムシ属の一種		●	●	●	●	●	
	ヒメハマトビムシのなかま				●		●	
節足動物門 昆虫類	ナゴヤサナエ（ヤゴ）				●		●	
軟体動物門 二枚貝類	タイワンシジミ		●	●	●		●	
軟体動物門 巻貝類	ヨシダカワザンショウ				●		●	
	ミズゴマツボ						●	
	コモチカワツボ						●	
環形動物門 多毛類	イトメ		●					
	ヤマトカワゴカイ				●		●	
	ヒメヤマトカワゴカイ		●				●	
	ヤマトスピオ						●	
	Notomastus 属の一種		●					
環形動物門 貧毛類	貧毛類の一種		●		●			
扁形動物門 三岐腸類	サンカクウミウズムシ				●			
脊椎動物門 魚類	ハゼのなかま		●					●
	ミミズハゼ				●			
	ヨシノボリ類				●			
脊椎動物門 両生類	ウシガエル（幼生）					●		
記録種数		33	3	16	8	23	6	16	4



護岸の隙間で身を潜める
クロベンケイガニ
（エリア１）



膝下くらいの水深で広がる
礫が混ざる砂泥底
（エリア２）



水辺近くの土が露出した場所に多数
形成されたクロベンケイガニの巣穴
（エリア４）

中瀬公園調査で確認された生物の写真



A：アシハラガニ， B：クロベンケイガニ， C：ア カテガニ，D：ケフサイソガニ， E：スジエビ， F： シラタエビ，G： アムールエビジャコ，H： キタアメリカフジツボ，I： ムロミスナウミナナフシ，J： キタフナムシ，K： イソコツブムシ属の一種，L： ニッポンヒイロワラジムシ，M： ヒゲツノメリタヨコエビ，N：サラドロクダムシ属の一種，O： ヒメハマトビムシのなかま，P：ナゴヤサナエ，Q： タイワンシジミ，R： ヨシダカワザンショウ，S－T：ミズゴマツボ， U-V：コモチカワツボ， W： イトメ，X： カワゴカイ属， Y： *Notomastus* 属の一種，Z： 貧毛類の一種，a： サンカクウミウズムシ，b： ウシガエル（幼生）.

７　報告会の様子

“官民学連携による調査で宮城県の絶滅危惧種を含む多様な生物を確認”をテーマに、中瀬公園における水辺の生物調査結果報告会を開催しました。

出席者：理工学部生物科学科 海洋ベントス学研究室　阿部博和 准教授、学生３名
石巻市役所職員（建設部都市計画課）
中瀬公園官民連携事業関係者

阿部 博和准教授からは、「中瀬公園整備事業において親水空間として利用することが予定されている 2 か所のエリア（エリア 4 とエリア 6）は中瀬公園の中でも特に貴重な種を含む多くの種の生息が確認された場所であり、生物の保全と自然観察を両立し、河川環境を学ぶ学習空間として最も望ましい場所であることが示された」、「それ以外の調査エリアではほとんどが護岸されており、水辺へのアクセスや生物の観察が難しいため、現状の地形に即してメリハリのある土地利用を展開するとともに、2 か所の親水エリアを一体として保全していくことを提案したい」との報告と提案を頂きました。

会場の様子





８　今後について

石巻専修大学をはじめとする関係者と連携し、継続的に生物調査を実施するとともに、その結果を公園の整備や管理運営に反映させ、生物多様性に配慮した公園づくりを進めていきます。

生物の生息環境の保全と親水空間の活用を図りながら、子どもたちが自然観察や　環境学習を行える場づくりを検討していきます。

本調査の結果は、歴史等情報受発信プロジェクトで設置する情報板の QR コードから閲覧できるウェブコンテンツで紹介し、今後の調査結果も随時更新していきます。